

## 米代川流域三署合同で広葉樹材の勉強会を開催について

広葉樹材については、樹種ごとに多種多様な使われ方があり、それに応じた需要層があります。また、外国産では仕入れが困難な場合もあります。

このことから、国有林野事業で働く職員は国産広葉樹材について知識向上を図り、需要と供給のマッチングを意識し事業を進めることが重要となります。

現在、国有林から供給される広葉樹材は、スギやカラマツを主とした人工林の森林整備を目的とした事業実行に伴い発生する小・中径木主体の広葉樹材ですが、使われ方や需要動向を理解すれば資源の有効活用が可能となります。

しかしながら、昭和期の拡大造林や施業や広葉樹択伐施業の時代は多くの職員が広葉樹と接していましたが、広葉樹施業の最盛期から相当の年数が経過したため、若手職員を中心に広葉樹材の見方や使われ方、需要動向等についての知識が不足している状況です。

このことを踏まえ、米代西部森林管理署では、今年、接近・通過した台風 21 号の強風により折れたり倒れたりした広葉樹を一般市場で販売する機会を捉え、米代川流域の米代東部森林管理署ならびに同上小阿仁支署の若手職員も加えた三署で広葉樹材の勉強会を開催しました。

1 日目（12 月 20 日）の勉強会は、青森県黒石市に所在する青森県森林組合連合会津軽木材流通センターにて、当日の市日のため出材された広葉樹材を実際に目にし、採材（曲がりや節（ふし）などの欠点を考慮し丸太の長さ寸法を決めること）の仕方について勉強しました。



欠点の見方や採材方法の説明を受けました。

広葉樹は欠点の見方が非常に重要であることを理解しました。

採材方法を勉強した後は、弘前市に所在し広葉樹材を購入・加工している「株式会社 ランバーテック工業」様の丸太加工工場を見学し、広葉樹丸太の加工技術と使われ方について勉強しました。

この工場は、広葉樹の丸太をスライサーという機械を使い、かつら剥き（皮をむくように薄く長く帯状に切ること）にした薄板を国内外に出荷しており、椅子や家具、床材（フローリング）をはじめ多種多様な製品に使用されています。

実際に目にしたことで、広葉樹の種類によって木目や色が違うことや、使われ方が違うことが理解できました。

(ア)

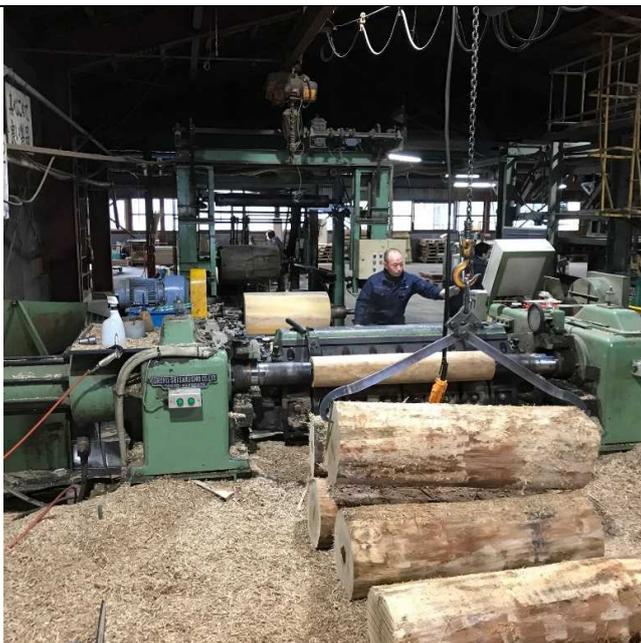
丸太を手前の機械でかつら剥きし、  
奥側で巻き取っています。

注文や使い方に応じた厚さにか  
つら剥きします。



(イ)

巻き取った薄板は色々な幅に裁断  
されます。



(ウ)

ミズナラ (左) とブナ (右) の薄板  
です。

どちらも家具や床材など身近なと  
ころに使われています。

注文規格によっては2枚を繋ぎ合  
わせる加工もしています。



2日目（12月21日）の勉強会は、青森県西目屋村に所在する「BUNAKO 西目屋工場」様の工場見学を行いました。

この会社は、ブナ材を加工したものを利用し青森県津軽地方の伝統産業であるブナコ製品を製作している会社です。

ブナ材が豊富であった60年余り前に、青森県工業試験場がブナ材の有効利用を図る観点から研究、加工・製作技術が確立しました。

製作にあたっては、巻き方や成形に高度な技術を要するとともに、製品完成までほぼ100%ハンドメイドのため手間ひまがかかるそうです。なお、約15年前からは照明器具やスピーカー等のインテリア関連を開発・商品化し、国内はもとより海外でも好評を得ているそうです。

この工場見学では、伝統産業の発展・保護の観点に立った資源の有効利用を考えた木材供給の重要性を勉強しました。

照明器具やスピーカーを製作するブナコ技術に参加者全員が驚きました。



(ア)

ブナ材をかつら剥きし、所定の幅にカットしたのを使います。



(イ)

職人さんにより円形状に巻いていきますが、力の加減が非常に難しいそうです。



(ウ)

巻きつけが終わったものを、成形の職人さんが商品に応じた形にします。



(エ)

形になったものを、研磨・糊付け・塗装・乾燥して商品の完成です。



ブナコ工場の見学終了後は、再び津軽木材流センターにて広葉樹の見方等について講義を受けました。

この講義では、それぞれの広葉樹の特徴や使われ方等の最低限習得すべきポイントを教わり、種類ごとの様々な使われ方が理解でき大変勉強になりました。

また、使われ方や加工方法に応じ採材方法も色々あることが理解でき大変勉強になりました。



使われ方や需要動向、欠点の見方等について講義を受けました。



実際の丸太を例にしながら、欠点や採材方法と販売結果の比較を全員でディスカッションし、更に理解を深めました。

以上で二日間に渡る勉強会は無事終了しました。

今回の勉強会の振り返りでは、広葉樹材の欠点の見方や採材方法が難しかったようですが、

・人工林の森林整備を目的とした事業で発生する小・中径木や曲り等の欠点のある広葉樹材でも需要があること

・広葉樹材の使われ方や加工技術を知ることができたこと

・広葉樹材への関心が低かったことに気づき、業務改善の向上意識が高まったこと

等々、今後の業務の進め方のステップアップに繋がった有意義な勉強会となったようです。

米代西部森林管理署では、国有林職員としての技術力の向上を図るため、引き続いて各種研修等  
に実施について取り組んで参ります。

**【あしがき】**

今回の勉強会の開催にあたり、

- 青森県森林組合連合会の職員の方々
- 株式会社ランバーテック工業の従業員の方々
- BUNAKO 西目屋工場の従業員の方々

におかれましては、お急がしい中にもかかわらず温かく対応して下さい大変お世話になりました。

参加者一同、厚くお礼申し上げます。